

令和元年度尾張旭市一般会計歳入歳出決算認定について

討論要旨 山下幹雄議員

まず要点は、反対理由、議会費の歳出についてであります。

令和元年度決算に於いて、25日の議会運営委員会では返還金、要するに公金、政務活動費としてお預かりした部分以上に使っていますので、返還金はなしという報告をされました。要するに、この報告で考えれば、決算的には認定しても全く問題はないということになりますが、先ほど話がありましたように調査中、まだ分からないことばかりということです。この際は、令和元年度修正をしまして、1,117円返還はしなくてもいい余裕額があるという報告でした。1,117円です。これから調査が入るわけですが、私たち議員は地方公務員の一員でもあります。

これは、25日に会派の代表、若杉たかし代表が議会運営委員の中で明らかに不正があった事実、そして、不正を起こした該当者の謝罪文を読み上げて公表している事実があります。その事実に基づいたならば、私たち地方公務員の一部を担う者についてはしっかり調査をして認定をする義務があるというふうに考えます。

この中で、各方面市民の方からも御指摘もいただきました。尾張旭市議会のチェック機能はどうなっていたのか。尾張旭市のチェック機能はどうなっていたのだ。監査は、会計管理はどうなっているのですかという問合せも頂きました。

監査委員事務局もお尋ねをいたしましたところ、議会費のチェックとしましては、事務局から出てきたものの数値の確認はもちろんしますが、その数値の確認のみでありますし、会計管理者も事務的なことを行っているということでもあります。政務活動費を幾ら使いましたということで、誰が申請するか。政務活動費は会派が申請をします。会派代表名で申請をするのです。それを、事務局を通して、最終的には議会では議長が責任をもって判を押して、会計管理者に回して支出確認をするという流れです。会計管理者は事務ですから、その責任者は誰か。もちろん市長です。市長が最終責任者、支出に対して。これは重いことであるという考えの中から、確かに議会は、もう本当にだらしがない。「何をやっているのだ。」そんなお言葉ばかりです。「もう涙が出てくる。尾張旭市民でいることが恥ずかしい。」こんな声を私たちは聴いています。

さきの反対討論の中で、そのことだけを取って反対するのはおかしいだろうという考えもあります。しかし、私は市民の負託をいただいて議員にさせていただいております。真面目にこのまちをよくしていこうと思っています。税金を大事に使って、どうやったら節約できるか、どうやったらお金を使わなくていろんな調査ができるかに頭を働かせるのが、普通、選ばれた議員じゃないですか。全く真逆なことをやっている。認めるべき議員がそれでは、何と言っ

ていいのか、もう本当に自分では混乱するばかり。残念ではありますが、これを認めるわけにはいかない。責任がどこにあるか、まだこれも分からないままです。ですから、これを追及して、しっかり全容解明してからでないと認められないなという私の考えでございます。